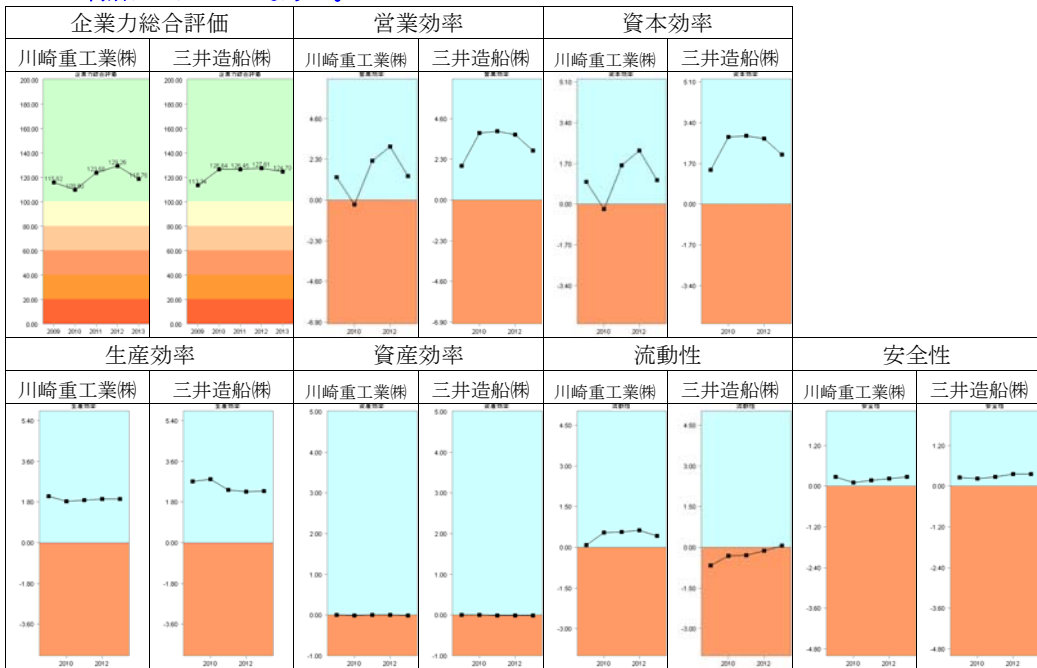


今回は川崎重工株式会社を分析しました。川崎重工の社長は三井造船株式会社との経営統合を進めていましたが、2013年6月13日、役員による社長解任のクーデターで白紙になりました。さて正しい判断だったのでしょうか。



企業力総合評価は、三井造船の方が安定していて良いです。
営業効率（儲かるか）、資本効率（資本利用度）、生産効率（人の利用度）、安全性（長期資金繰り）も三井造船の方が良いです。資産効率（資産利用度）は同じです。
流動性（短期資金繰り）は、川崎重工の方が良いです。

以上のように、企業全体の評価と各指標を比べる限りでは、川崎重工は三井造船と経営統合すべきだったと考えられます。

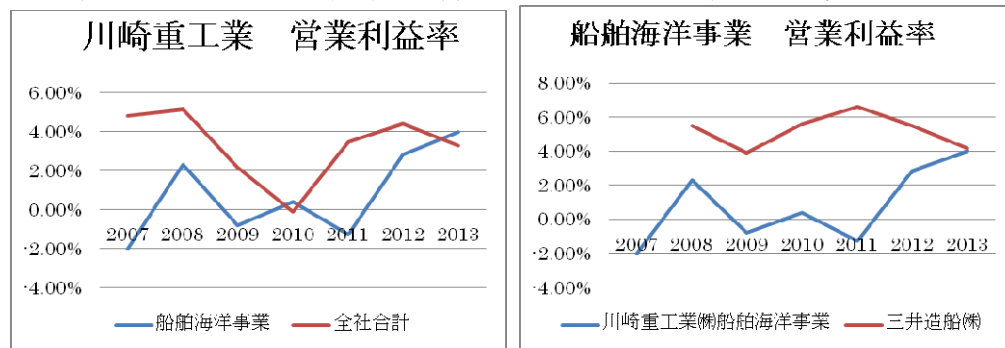
ではもう少し詳しく調べます。川崎重工は、①船舶海洋事業（船舶等の製造販売） ②車両事業（鉄道車両等の製造販売） ③航空宇宙事業（航空機等の製造販売） ④ガスタービン・機械事業（ジェットエンジン等の製造販売） ⑤プラント・環境事業（産業機械、ボイラ等の製造販売） ⑥モーターサイクル&エンジン事業（二輪車、四輪バギー車、ジェットスキー等の製造販売） ⑦精密機械事業（油圧機器、産業ロボット等の製造販売） ⑧その他事業 と多数の事業を行っているのですが、それぞれがどのような経営状況にあるのか、特に船舶海洋事業はどうだったのでしょうか。

次の表では、全社で見た場合の営業利益率に対して、それより高い利益率のものは青字、低い利益率のものは赤字で示しています。船舶海洋事業は、モーターサイクル&エンジン事業、その他事業に続

き、3番目に利益率の低い（全体の足を引っ張っている）事業という結果になりました。

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
船舶海洋事業	-2.05%	2.32%	-0.80%	0.37%	-1.29%	2.81%	3.98%
車両事業	7.16%	4.19%	6.10%	5.17%	5.80%	3.21%	1.08%
航空宇宙事業	5.00%	4.60%	-2.08%	1.35%	1.11%	3.10%	5.57%
ガスタービン・機械事業	5.38%	7.24%	5.65%	4.03%	4.28%	3.32%	2.77%
プラント・環境	-1.97%	7.62%	8.53%	6.74%	8.87%	10.82%	7.81%
モーターサイクル&エンジン事業	6.84%	4.55%	-3.01%	-13.94%	-2.55%	-1.94%	0.33%
精密機械事業	9.11%	10.87%	9.88%	3.48%	15.47%	14.53%	5.85%
その他事業	3.54%	2.27%	4.11%	-1.75%	1.83%	2.44%	0.40%
全社合計	4.81%	5.12%	2.14%	-0.11%	3.47%	4.41%	3.26%

左下グラフを見ると、船舶海洋事業部の利益率が全社に対して低く、また右下グラフでは、その利益率は改善トレンドにあるものの、三井造船の利益率より低いことが分かります。



川崎重工(株)の事業部別売上高推移を見ると、船舶海洋事業の売上高は、2011年から減少し続けています。上グラフで見たように営業利益率を上げることで、その売上減少をカバーしてきたけれど、もう限界に来ているとの判断だったのでしょうか。川崎重工(株)の全社売上が1,288,881百万円、うち船舶海洋事業売上90,343百万円、それで売上高577,093百万円の三井造船(株)との経営統合を望むのは、合理的な選択だったと言えるはずで

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
船舶海洋事業	108,848	141,397	126,426	151,893	118,416	113,532	90,343
車両事業	184,283	171,738	186,454	150,071	131,104	132,684	129,973
航空宇宙事業	269,108	237,348	200,424	188,892	196,876	206,580	239,172
ガスタービン・機械事業	183,308	185,486	195,156	191,379	202,692	194,655	207,008
プラント・環境	122,062	142,547	105,178	107,580	89,012	122,800	115,813
モーターサイクル&エンジン事業	403,701	433,962	336,459	203,084	234,479	235,243	251,858
精密機械事業	66,649	84,027	84,919	82,715	140,328	175,077	130,455
その他事業	100,657	104,588	103,579	97,855	114,038	123,205	124,256

まとめ 川崎重工(株)は、三井造船(株)との経営統合を進める方が成長に繋がったと思われませんが、クーデターは、何を指しての判断だったのでしょうか。三井造船(株)にとっては生き残りをかけた統合だったと思われ

編集後記 そんな人だったのか、ふられて良かったわ、なんてこともありますよね。 文責 MS
〒556-0005 大阪市浪速区日本橋 4-9-21 SARUKI ビル 4F 猿木真紀子税理士事務所
Tel. 06-6631-4570 Fax. 06-6631-7970 info@saruki-tax.jp http://www.saruki-tax.jp